THE PROFESSIONAL ザ プロフェッショナル
vol. 46

東邦大学

東邦大学医療センター佐倉病院　眼科
准教授　八木 文彦

『地域中核病院として幅広い眼疾患へ対応。急性期大学病院として専門性の高い最先端の眼科診療を行っています。』

2024年１月１日発行

はじめに

視覚は五感から受け取る情報のうち８割以上を占めるため、目の働きを維持することは大変重要です。東邦大学医療センター佐倉病院眼科では、1991年に竹内 忍先生が初代教授として開設されてから現在まで、失明を脅かす増殖糖尿病網膜症や網膜剥離などの難治性網膜硝子体診療・手術を専門にしています。現在は伝統の診療・手術技術に最新の手術・検査機器を導入することで、最適の治療タイミングでエビデンスに基づいた診療を心掛けております。

診療実績

2022年度の主な手術件数は、

白内障手術	1,577件
網膜硝子体手術	752件
緑内障手術	133件
斜視手術	40件

その他を含めて総数は3,158件でした。

診療体制

常勤医師 16 名（准教授１名､講師１名､助教３名､助教【任期】２名、院内助教８名、准修練医１名)、非常勤医師 10 名（客員講師５名、非常勤講師１名、非常勤医師４名)、視能訓練士 11 名で診療・教育・研究を行っています。網膜剥離等緊急性の高い疾患に対しては可能な限り迅速に治療ができる体制を整えております。また、加齢黄斑変性に対する抗 VEGF 療法（2022 年度は 3,858 件）や光線力学的療法も積極的に施行しております。最近は涙道内視鏡を用いた涙道疾患の治療や、眼瞼下垂等の眼瞼（まぶた）の治療にも力を入れております。

研究体制

大学病院の使命として、診療以外に研究活動も精力的に行っております。当科の特徴として、眼血流を非侵襲的に測定することで、網膜疾患の病態解明と治療効果の判定をしています。現在、網膜静脈分枝閉塞症に対する手術成績と血流動態の関連性の臨床研究、網膜剥離の術後視機能に関する臨床研究、網膜硝子体疾患におけるフリーラジカル測定と解析、網膜静脈閉塞症における脈絡膜厚と脈絡膜循環に関する研究等を行っております。研究で得られたデータをもとに日常診療にフィードバックして眼科疾患の治療に役立てられるように臨床研究をメインに日夜努力を続けております。

おわりに

眼科の患者様は比較的高齢の方が多く、治療にあたっても的確な全身状態の把握と低侵襲な治療が求められます。また、自立した生活を長く続けるためには、目の健康維持が不可欠です。世界一の長寿国である日本において、眼科の需要はますます高まっています。最新の医療機器を活用して、それぞれの患者様に最適な診療を提供するようこれからも精進努力を続けて参る所存です。

図１ 最先端の27ゲージシステムによる硝子体手術

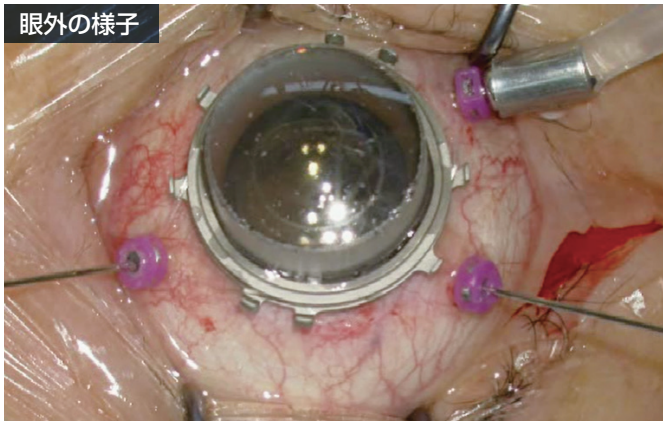
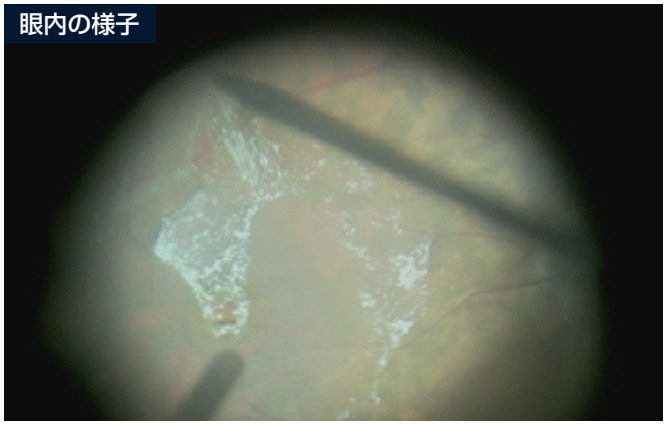


図２ 27ゲージシステムによる黄斑円孔に対する硝子体手術



各科外来診療担当医のスケジュールについては、当院ホームページ「診療科・部門一覧」をご確認ください。

https://www.sakura.med.toho-u.ac.jp/sinryoka/index.html

診療についてのお問い合わせ先
医療連携・患者支援センター
月～金曜日　9:00～17:00　土曜日（第3土曜日除く）　9:00～13:00
TEL 043-462-8811

発行 広報委員会・東邦佐倉会事務局　〒285-8741 千葉県佐倉市下志津564番地1 / TEL：043-462-8811㈹ / FAX：043-462-8820㈹ / URL http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp